

(129) 栃木県田沼町の野峰鉾山(宝沢坑)

参考文献(1)を手引きに、野峰鉾山宝沢坑の探査を行った。足尾山地に多数あったマンガン鉾山の内の1つである。後掲している、野峰鉾山鉾床分布の図4よりわかるように、野峰鉾山には多数の鉾床があった。今回はその内の一つである宝沢坑(宝木坑と書いているが後掲の図5では宝沢坑と記しているので、この方を採用する)を探査した。最初の探査時には、図5中の林道と黒沢東川の位置の左右関係にとらわれて、現地への支流沢を確認することができなかった。が、後日に、現地の状況、幾つかの資料を照らし合わせて、再探査を行った結果、ある支流沢の上流に、鉾山跡を確認した。上下に連続する幾つもの坑口跡、多数のプラトー跡、沢一体のズリ・転石から、ここが宝沢坑跡であると判断した。とすれば、前述の「ある支流沢」の名前は宝沢となろう。

現地への経路は次の通りである。佐野市から田沼町に入り、彦摩川に沿っている66号に入る。後は道に沿って、北北西方向に進んでいく。飛駒地区で、208号に入り、北上していく。さらに、黒沢地区に入り、北上して行くと、図2の「分岐」点に行き着く。道は、前方にある橋を渡ってから、直進している道と、左折している道に分岐している。今回の探査場所へは、直進道を進む。この分岐点から、林道を約1.8km進むと黒沢東川を渡っている橋があり、その手前に小さいながらも空き地がある。ここに車を置ける。ここから歩くことになる。

探査日 2013年7月

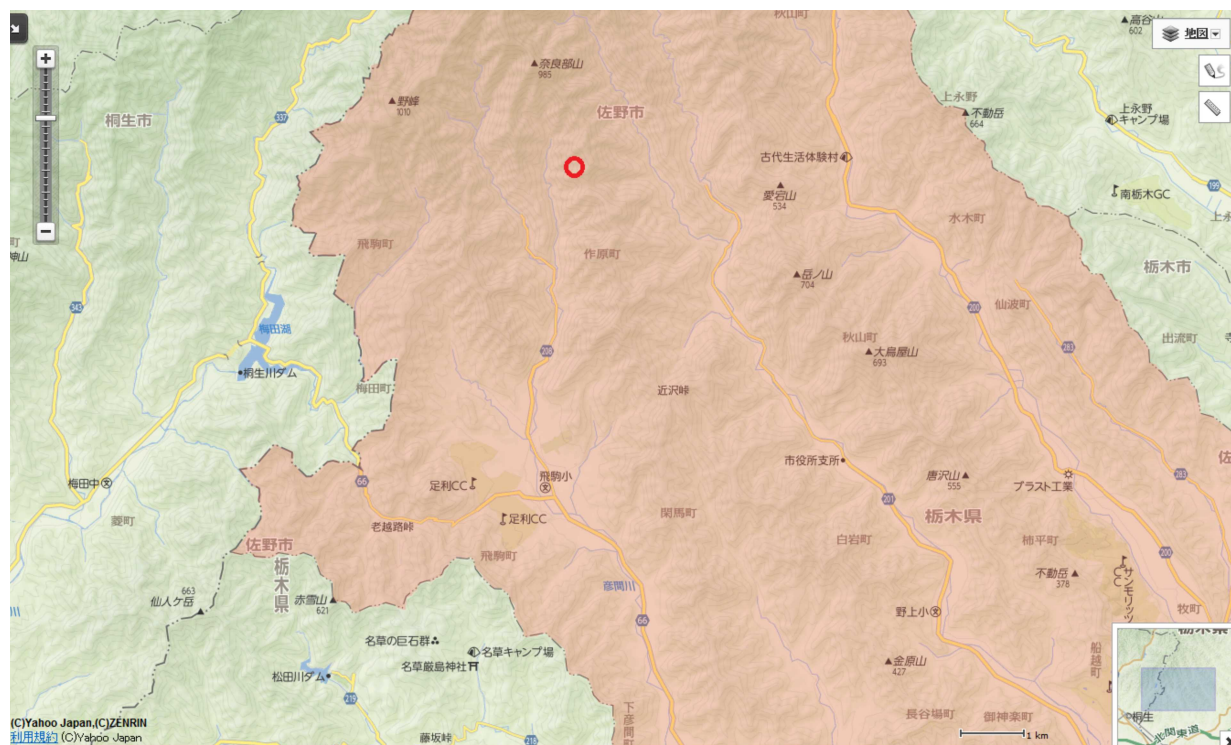


図1 Yahooの地図サービスより複写掲載。今まで通りの国土地理院の2万5千分の1の地形図では、広い領域を表示しきれないので、この地図で代用することにした。中央少し上の赤丸当たりが、野峰鉾山宝沢坑跡。黒沢東川の支流である宝沢の近くの所まで、林道を車で登り上がる。

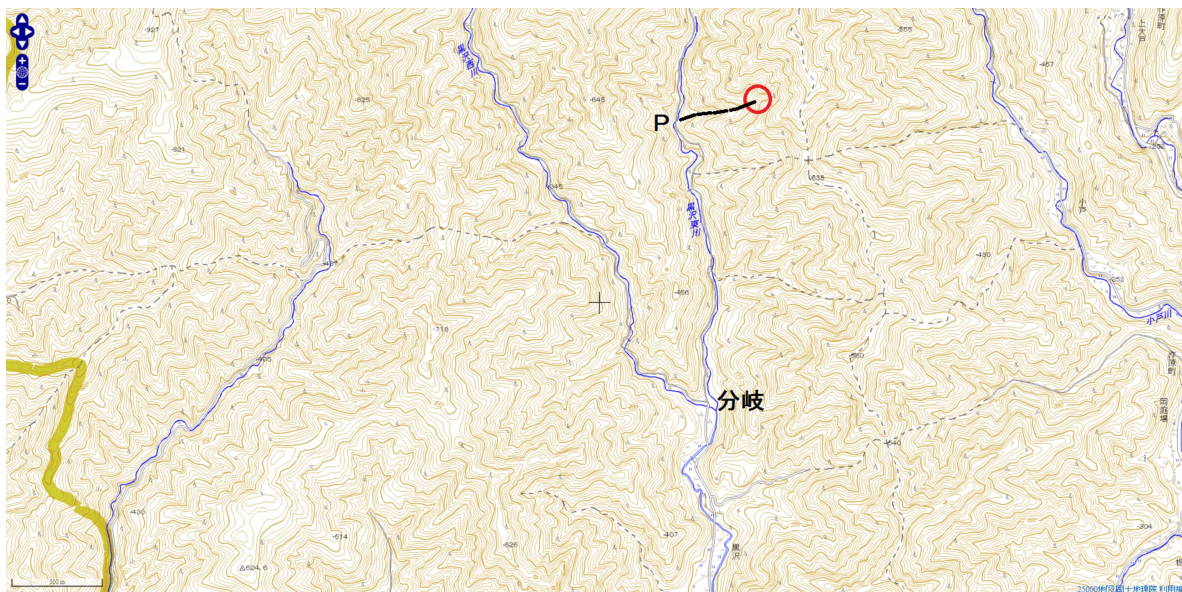


図2 図1の部分拡大図に相当。国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。分岐の所までは良く整備されている村道である。分岐より先は林道。分岐点から、黒沢東川沿いに北に延びている道に進む。野峰鉾山には多数の鉾床があった。今回の宝沢坑以外の他の鉾床は、分岐で左側の林道を、黒沢西川沿いに進んだ先にある。P点は車を駐車させた場所。P点から右側の、書き込んだ黒線は沢に沿った山道。赤丸付近が鉾山跡。広い領域に鉾山跡が分布している。

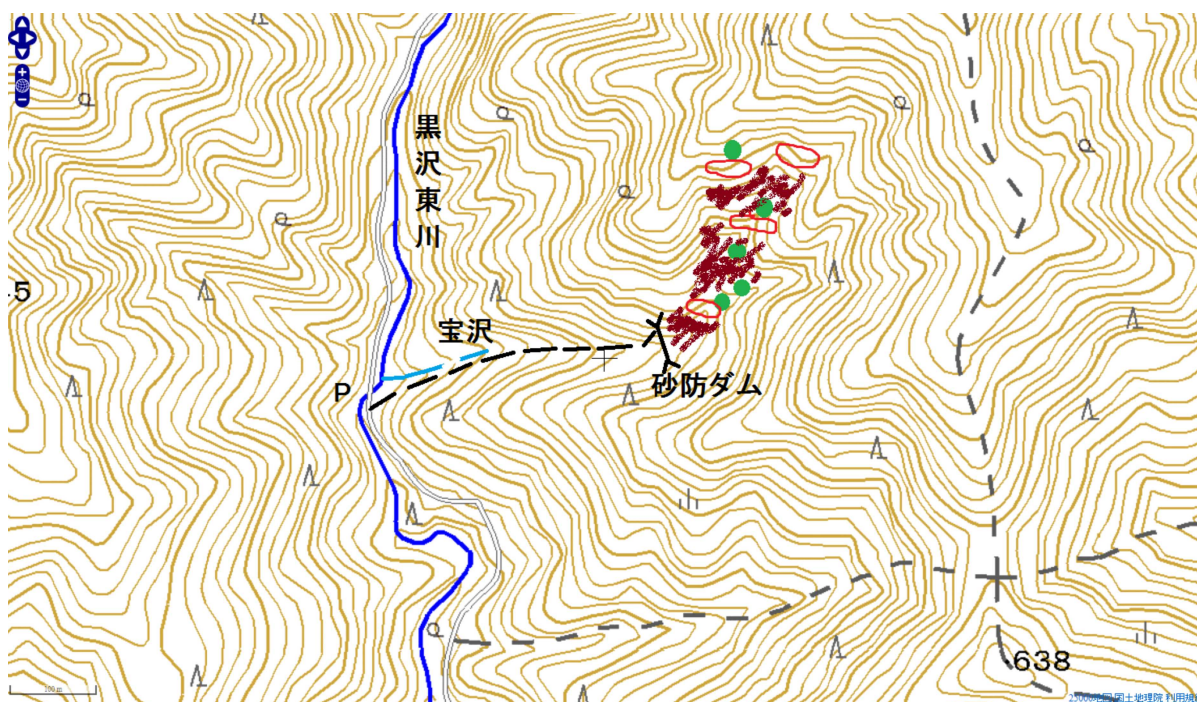


図3 図2の部分拡大。P点は車を駐車した場所。ここから現地までは沢沿いに山道が生きている。図中に、沢水を水色線で、山道を黒線で書き入れている。標高約470mあたりに、砂防ダムがあった。その上流にあるズリの崩落防止用に造られたもののようである。砂防ダムの少し上流に石垣付きの広いプラトーがあった。プラトーの右端には、埋もれが掛っている坑口跡、その少し上には、大きな坑口跡があった幅の広い緩やかな沢の上流には、幾つもの坑口跡、プラトー跡がある。広い沢全体にズリ・転石がある。Pが駐車場、水色で沢を、黒線で山道を示している。黄緑丸が坑口跡、赤輪はプラトー地、茶色ベタはズリ・転石。

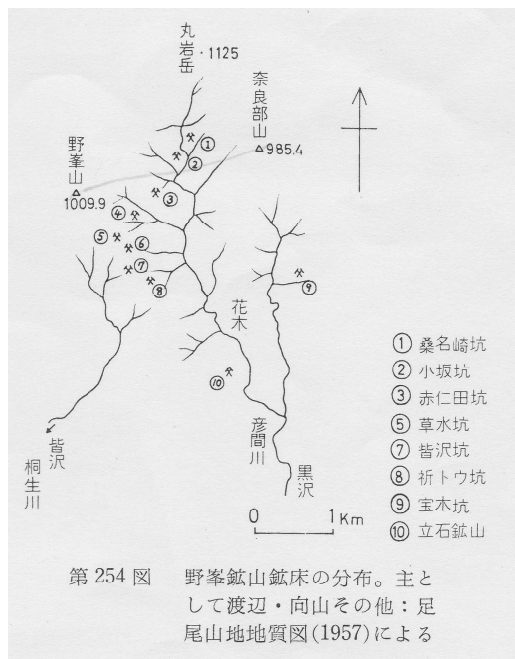


図 4 参考文献(1)より。野峰鉾山には多数の鉾床があり、かつては稼業されていた。今回は⑨宝沢坑(宝木ではなく、宝沢とする)を探索し、現地を確認した。そのうちに、他の鉾床跡も探索したい。

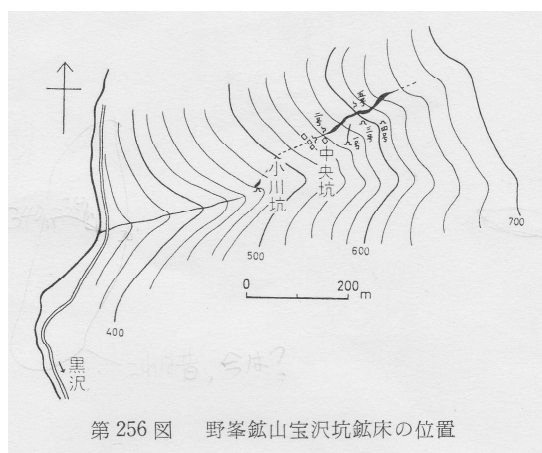


図 5 参考文献(1)より。宝沢坑の位置がより詳細に記されている。が、現地で確認すると、南北に沿っている林道と川の左右関係が、現在では全く合わない。この地図は、60年以上前のものである。当てになったのは、分岐点から北に約2kmの所の沢の上流であるとの記述と、この図から、沢の合流地点は標高約360m、支流沢の向きは東西方向であり、鉾床跡の上部には700mの等高線が南北に位置していること。標高約360mの林道付近を現地で探索すると、支流沢が見つかり、それに繋がっていきそうな山道が見つかった。この林道に沿って、支流沢を登り上がった。

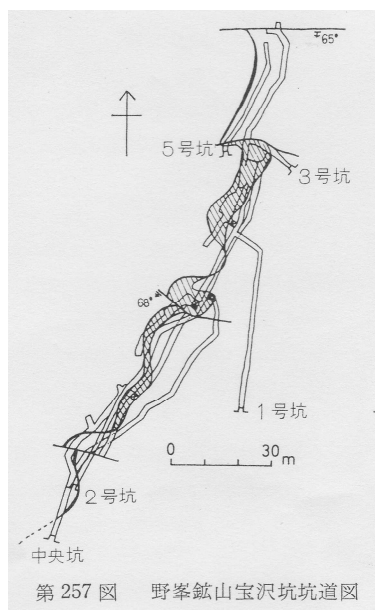


図 6 参考文献(1)より。

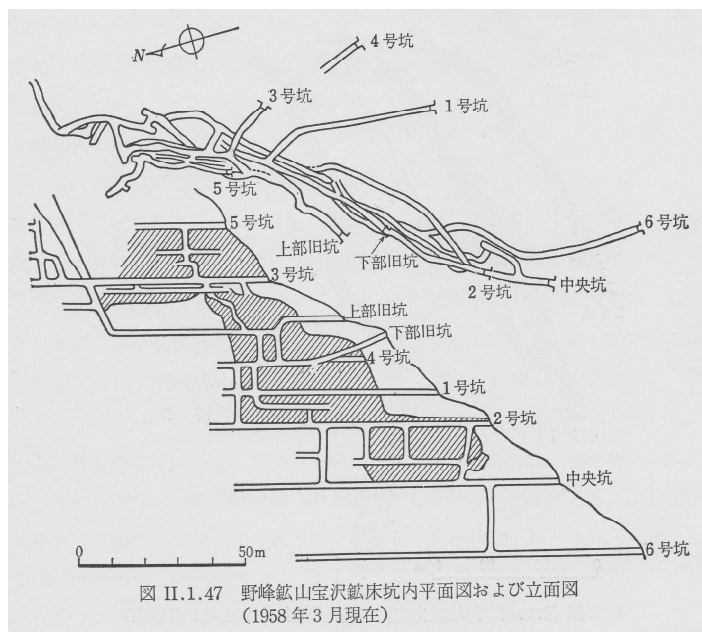


図7 参考文献（2）より。

鉱山跡写真



写真1 分岐点から約1.8kmの所。前方に、黒沢東川に架かっている橋がある。先まで車で通行可。橋の手前、右手に沢に沿って山道が延びている。これに入っていく。



写真2 登って行くと、木立の中の前方に、それほど大きくはない砂防ダムが現れた。このダムの上部にあるズリなどの崩落防止用に設置されたものと思われる。左側で楽に乗り越えができる。



写真3 砂防ダムの先に、石垣のある
広いプラト一部があった。



写真4 プラト一部の右端にあった、
最初に見つけた、隠されかかっている坑
口跡。



写真5 写真4の坑口跡の上の方に
あった大きな坑口跡。



写真6 その内部。



写真7 その他の坑口跡の1つ。



写真8 これもその他の坑口跡の一つ。手前に石垣、そしてプラトー部がある。



写真 9 その他の坑口跡の 1 つ。当日は暑い日であった。坑口から冷気が吹き出しており、涼めた。



写真 10 大きなマンガン鉱の転石をハンマーで何度か打った。硬い。漸く 2 つに破断。

採集鉱物写真

特になし。

参考文献

- (1) 「日本のマンガン鉱床補遺 後編」、吉村豊文、1969年。
- (2) 「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。